

# 第15回日本語大賞

特定非営利活動法人日本語検定委員会



中学生の部 優秀賞 受賞作品

『「繕う」ことの意義』

東京都  
学習院女子中等科  
三年 川口 真結子

## 「繕う」ことの意義

学習院女子中等科 三年

川口 真結子（かわぐち まゆこ）

私の推しの言葉は「繕う」という言葉だ。

この言葉は一般的にマイナスのニュアンスを持つ言葉として捉えられる。類語を調べると「修正する」「修繕する」など具合の悪い部分を直すと言った意味合いの言葉が見受けられる。これらの単語からはプラスの意味としても捉えることができるが、例文の中には、表面だけ美しく「取り繕う」といった様にこの言葉に決して良い印象を持つことができないものも挙げることができる。中でも「取り繕うことは不要だ」という例文からは意味がわからなかったとしてもこの言葉に対して完全に悪い印象を与えてしまう。

ではなぜ私達は人前で「繕う」という行為をするのだろうか。「世間体を繕う」という例文にあるように、それは私達の内面には必ず、他人に対して自分の印象を少しでも良く見せようという一心があるからだと思う。失敗をしたり悲しい時笑顔で「繕う」、つまり誤魔化せばその場を耐え凌ぎ恥をかかないで済むと考えてしまう。

だが、この言葉には二つ目の意味として欠点を補うという意味以外にも「見た目を整える」という意味が含まれている。例を挙げながら説明しよう。

その用法が使われているもの一つに「衣紋を繕う」という慣用句がある。この慣用句には衣服・装束に乱れがないよう「心を配る」という意味がある。繕うという行動と概念が古くから日本の文化として人々に根付いている証拠となると共に、この言葉には自分をよく見せようとするだけでなく、相手の気分を害さないよう心配りをする日本人のさりげない配慮が取り入れられているのだと感じた。また「繕う」ことは悪いことだけではなく、欠点を持つ自分を少しずつ変えていくためのプロセスである行動だと感じることができた。人は誰しも自分をよく見せようとする努力をする。メイク、髪型といった身なりだけではなく他人とのコミュニケーションを通して自分の美徳を相手に伝えようとする。お互いが時に必死になりながら努力することによって得られる大切な友情、絆がたくさんあるが「繕う」方法・意味を間違えてはいけない。

前述で例として挙げた通り、笑顔で「繕う」という文にある「繕う」には、自分のミスや何とかが誤魔化す、されて嫌だったことに物申さず我慢するという意味が込められていると推測できる。私達には馬が合わない人が一定数いるが、例えば自分がその人から嫌なことをされても全てを受け入れて笑顔を振りまいて我慢しているようでは何も解決しない。他人に対して意見を交えつつ反発し自分も「繕い」ながらお互いを受け入れていくべきだと思う。また、たとえ失敗をしたとしても上辺を整えて「繕う」だけではなく、各々が自分自身の悪いところを修繕すればより良い人間関係を築くための第一歩を踏み出すことができるはずだ。

「繕う」こと、それは私達の解釈・活用の仕方によって変わる言葉なのかもしれない。相手から見える一面だけを良くしてもその裏では何か腑におちず、後悔の念が募るはずだ。変えていくべき自分は本質的な自分なのだと思う。

この言葉は、たとえ失敗をしてもそれを直していくことによって人は良い方向へと変わることができるということ、そして今回この言葉を調べた中で私がこの言葉について解釈を深めたように一見悪い印象を受けてもよく知り、多面的に見るにより良い印象を受

けることができるきつかけとなると教えてくれた。「繕い」ながら自分に磨きをかけていくことが大切なのだ。

この作文を「繕い」ながら書くことに何度も苦戦したが、やっぱりこの言葉は私の推しだ。